

2. 毎年4万人がかかっています

日本では、乳がんにかかる女性は年々増えており、今では年間約4万人の女性がかかると推定されています。

また亡くなる方も、ここ50年間で7倍近くに増えています。

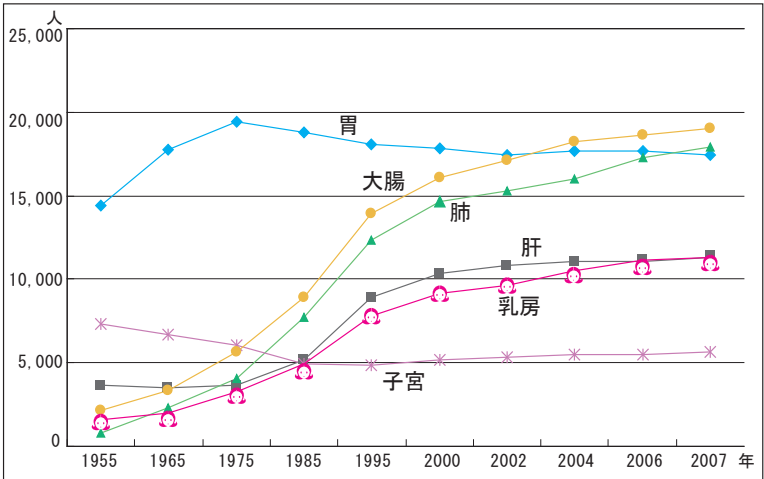
2007年には1万1千人を超える方が亡くなりました。

女性の全年齢層では胃や大腸のがんで亡くなる方が多いのですが(グラフ1)、30歳から64歳の壮年層では、乳がんが死亡原因の第1位となっています(グラフ2、表1)。

また若い年代の乳がん死亡率が年々上昇しています(グラフ3)。

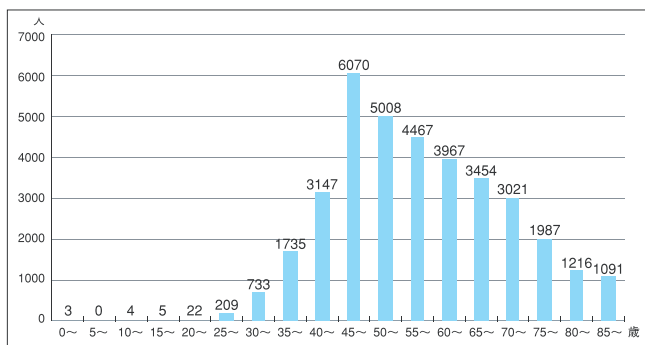
20代でかかる方は少ないとはいえ、若いときから関心をもつことが大切です。

グラフ1 女性のがん部位別死亡数



厚生労働省人口動態統計より

グラフ2 40歳前後を境に、乳がんにかかる人が急激に増加します



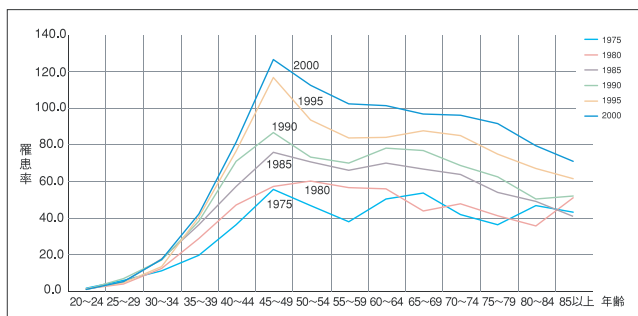
厚生労働省「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」研究班、平成15年度報告書より

表1 女性壮年層では死亡原因の1位は乳がんです

年齢層	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳
全がん	3.0	5.7	11.2	24.7	40.3	73.1	126.9	168.5	220.7	315.4	457.7	659.1
乳房	0.1 (11位)	0.5 (4位)	2.2	6.2	11.4	19.9	30.5	34.0	31.6	30.4 (5位)	26.9 (8位)	29.2 (8位)
1位	胃・白血病 0.5	白血病 1.0	乳房 2.2	乳房 6.2	乳房 11.4	乳房 19.9	乳房 30.5	乳房 34.0	乳房 31.6	大腸 45.3	肝臓 64.1	大腸 93.2

 全国年齢階級別死亡率（対人口10万人）、部位、性、死亡年別
 人口動態統計1968～2004年（厚生労働省大臣官房統計情報部）より

グラフ3 乳がんにかかる率は年々上昇しています



厚生労働省がん研究助成金「地域がん登録」研究班（1975～1999年）および厚生労働省科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班（2000年～）